

平成28年度 学校評価実施報告書

学校番号 098 学校名 千葉県立大網高等学校 課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>①本年度、学校ホームページの更新を積極的に行った。ホームページ上の学校だよりである「網高NOW」には生徒の活躍や教育活動、学校行事、地域連携の様子などを写真を豊富に掲載した。更新は月単位にまとめ、更新は昨年度177回、今年度は現在192回を超えた。見やすいわかりやすいレイアウトを試み、校内掲示も行った。</p> <p>②施設・管理は、毎月安全点検を全職員で実施しているが、老朽化に伴い修繕箇所も増えており十分な対応が追いついていない。</p> <p>③学校が教育活動全般において、生徒や保護者への対応する場合は、学級、学年、関係分掌、管理職との連携を密にし、適正な対応ができていると思われる。</p>	<p>①今後は、紙面構成と写真や図を増やし視覚に効果的なレイアウトづくりを図るとともに、校内掲示だけでなく、全校集会や来校する保護者、学校公開時にも内容が紹介できる機会をさらに増やしていく。さらに、内容に関するアンケートや評価を積極的に行ったり、モニター制度を活用し、ニーズに応じた紙面づくりや学習指導、生徒指導、進路指導、部活動や特別活動等の記録も掲載していく。</p> <p>②少しずつであるが修繕は進んでいる。安全点検を形骸化させず、チェック機能を重視していきたい。</p> <p>③保護者による教育活動の理解と協力をさらに図るために、年間をとおして情報共有や連絡体制がとれるようにしたい。面談週間や学校公開の在り方などを検討する。</p>
学習指導	<p>①「日常の授業は、ていねいでわかりやすく行われているか」という問いに対して、肯定的な回答が昨年度63.2%から今年度62.4%になった。</p> <p>②校内研究授業、研修会に実施回数とその状況については、初任者研修、フォローアップ研修Ⅰ、5年経験者研修等で、研究授業を8回実施したほか、その他6,10月を授業力向上月間として、相互の授業参観を実施し、感想を提出させた。</p> <p>③日頃の学習指導が計画的で生徒にとって効果的に行われていると思っている職員の割合は、昨年度84.7%から86.2%と1.5ポイント上がった。</p>	<p>①アクティブ・ラーニングの研修や講演などを積極的に実施するとともに、生徒の振り返りによる授業評価を全教科で実施させる。また、先進的な授業実践を参観させたり、各教科で研究させるなどの取組が必要である。</p> <p>②若手職員研修チームをさらに大幅に活用し、授業づくりに向けた研修計画や方法を協議させ、活気ある職場にすることで、授業力向上を図る。</p> <p>③シラバスや学習指導計画の作成に関して、目標と指導内容、評価方法などをさらに綿密にした内容にするための研修等を実施する。ホームページにシラバスを公開するなど透明性を高めることでシラバス作成に関して職員の意識を高めさせる。</p>
生徒指導	<p>①6月に三者面談、毎学期に1回いじめ生徒理解のための学校生活アンケートを実施してきた。また、2学期特に強化したのは、教育相談、セクハラ相談、スクールカウンセラーなど相談窓口に関する広報や掲示を積極的に行い、周知率が75%と高かった。</p> <p>②服装・頭髪指導に関する評価は、自己評価で84.3%、生徒も昨年度89.1%から84.8%、保護者も87.2%から88.9%と理解度は高い割合を維持している。</p> <p>③生徒指導については、78.4%（昨年度87.7%）の職員が現状を踏まえた適切だと考えている。</p>	<p>①相談窓口については、関係職員やスクールカウンセラーと協力し、模擬相談や個別面談週間の創設などを全校で実施し、生徒への周知を高めさせるとともに、相談しやすい雰囲気への向上に努める。</p> <p>②全校や登校時の指導だけでは、服装指導はなかなか浸透していかない。授業や実習時での指導も含め、保護者や外部の方など、一般的な方々から客観的な意見や評価を得る機会を増やす。</p> <p>③登校指導、遅刻指導など、職員が連携をとり毎日実施している。基本的な生活習慣の確立を大きな目標としていることが各職員に浸透している。交通安全やネットによるトラブル防止、いじめ防止等の指導に関しては、トラブル防止や危機管理の方法について、繰り返しの指導を徹底する。</p>
キャリア教育	<p>①ガイダンス機能を充実するための工夫・取組の状況は、各学年とも進路指導計画にしたがって6月に全校で1回、2学年は毎学期末に1回、3年生は4回実施した。ある専門学科では、6月に卒業生である会社経営者を講師とした講演会や座談会を開催し、生徒のキャリア意識の醸成を図っている。2月には、進路報告会として、3年生の代表者に進路決定までの過程を1,2年生の前で発表させた。</p> <p>②インターンシップは、食品工業科2年生が専門分野の企業等に全員参加している。</p> <p>③農業経済科3年生全員が高大連携で、東京情報大学の学生とグラフィックデザインの共同製作を実施している。</p>	<p>①ガイダンスの回数を計画どおり実施した。「学校で提供される進路情報や進路指導で進路を決めることができる」や「職員が熱心に指導する」点では、たいへん高い割合で肯定的な回答を得た。今後引き続き、ガイダンス、個別指導の体制を整備していきたい。特に学科別の訪問見学や進路講話などを企画して充実を図る。</p> <p>②インターンシップの成果は高い。他学科や普通科も含め生徒の体験活動を充実させることが必要である。</p> <p>③高大連携については、大学だけでなく、農業大学校、各種研究施設、企業等と連携した取組を計画していく。</p>

学校評価の公表について (手段・時期・内容等)	3月中に学校のホームページ上にアップする。特に、年度や学年による比較も導入し、学校評価の成果も公表し、記述式による評価の概要や学校関係者評価の概要も公表する予定である。
----------------------------	--

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	①ホームページを始め、教育活動を紹介したプレゼンテーションなどで、本校の教育内容に対する理解が深まった。近隣の中学校からも、学校だより『網高NOW』の掲示依頼について、早速対応していただき、本校を身近に感じる生徒の増加が期待できるとの評価をいただいた。 ②施設・設備の安全管理や整備は、安全な学校づくりに向けて徹底していただきたい。また、生徒への安全指導もお願いしたい。 ③いじめ対策や校長の運営方針など、職員や生徒、保護者に概ね理解されていると思われる。今後も全職員で協力・連携をとって、教育活動の推進に努めてもらいたい。	①学校のホームページについて、さらに充実した内容を掲載していくために、作業チームなどの組織的な体制で取り組む。例えば、総務広報部の業務としての位置づけ、教頭も含め複数の担当者による分担が必要である。 ②改修や修繕に向けて、管理部、事務担当、管理職との情報共有を図りながら、安全対策を継続していく。改善に関する情報を生徒、保護者等に発信していくことで安全教育につなげていく。 ③日頃の行動観察だけでなく、生徒の個人面談や家庭との連携によって、防止と初期対応に重点を置いた教育方針を立てて、関係分掌や委員会でも協議できる環境を整える。
学習指導	①「ていねいでわかりやすい授業の実践」は、生徒、保護者にとって学校に最も期待する点である。授業規律の向上とともに、毅然とした指導を今後ともお願いしたい。 ②教科の力が身に付いているか、という質問については、「だいたいそう思う」から「そう思う」へと生徒、保護者の評価と自己評価が増えるように、学校全体で努めて欲しい。各教科の専門性と特色をさらに生かした指導をして欲しい。 ③シラバスをもとに、計画に基づいた指導や評価をしていただきたい。生徒が主体的に発言して、思考し表現する機会を授業に積極的に組み込んで欲しい。	①授業研究については、今後も継続して実施していく。特に、教員が自身の授業を振り返る機会を多くし、相互に意見が言いやすい雰囲気づくりや方法を考案していく。 ②学習成果については、生徒による振り返りチェック評価として、自身の授業に対する自己評価をもとに、学習の成果の習得について評価させる。その結果をもとに、授業評価の客観的な材料としていく。 ③シラバスや学習指導計画の作成については、教科全体で確認していく。生徒の主体的な活動を促し、評価していく規準づくりに関して、各教科で研究させ、計画的な指導と適切な評価に向けた工夫改善を行わせる。
生徒指導	①生徒指導の在り方については、アンケートなど職員、生徒、保護者への理解が浸透していると思われる。記述式には、生徒と教員の間でのコミュニケーションについて、伝え方に関する課題も見出されたので、改善に向けて取り組んでいただきたい。 ②学校に訪問した際など、挨拶する生徒も多いが、生徒や職員の一部には返ってこない場合もある。明るい学校づくりのためにも、挨拶ができるような生徒をしっかりと育てて欲しいし、職員も努力して欲しい。 ③多様な生徒が増加する中で、個別のきめ細かい生徒指導の重要性が高まっている。今後も寄り添う指導を継続していただきたい。	①生徒指導に対する保護者の信頼度を高めるために、服装・頭髪指導の様子や課題研究、意見発表などの行事にも保護者に参観していただく。職員には、生徒との適切な人間関係が形成できるように、ソーシャルスキルに関する研修などを開催していく。 ②日々の挨拶に関しては、朝の登校指導における挨拶の励行を始め、生徒会や生徒会各委員会、部活動と連携し、挨拶運動などを展開する。職員への啓発も含め、学校全体で挨拶しあう雰囲気づくりを行う。 ③生徒へのきめ細かい指導や支援には、個人面談や適切な声かけ等が効果的である。担任には生徒の心情を理解させていくように努めさせる。
キャリア教育	①進路指導に対する肯定的回答が、学年が上がるにつれて増加していることはたいへんよい傾向である。生徒、職員の信頼関係をもとに、キャリア教育を実践していただきたい。 ②インターンシップは、社会体験と自己の職業に対する適性を考える上で貴重な経験となる。多くの生徒が参加できるようにしていただきたい。 ③学校斡旋による就職が多い点で、各生徒が卒業してから社会でも活躍して欲しいと考える。保護者に対しても、進路に関する情報を積極的に発信し家庭との連携を図って欲しい。	①学年全体でキャリア教育や進路指導に対する目標を具体的に設定させる。例えば、学力試験や面接の対策等について、進路指導部との連携を図りながら、当該学年で協議し、方法や回数等に関して協議し、実践していく。 ②インターンシップ発表会や報告会などを実施して、食品工業科以外の専門学科や普通科の生徒もその成果を共有させていく。 ③学校のホームページに、進路報告会やキャリア教育の取組状況などについて、月2回程度の割合で更新し掲載する。保護者や一般向けに、進路ガイダンスや進路状況がわかりやすく紹介する。